

地元女子サッカーチーム

川原市
奈模
神相

大豆種まき応援

【神奈川・相模原】

大豆「津久井在来」の加工品などを開発・販売する「豊国屋」を営む岡本政廣さん（70）は7月中旬、女子サッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」の選手に、大豆の播種（はしゅ）を指導した。選手や監督ら12人が参加した。

チームは相模原市をホームタウンに活動し日本女子プロサッカーリーグに所属。取り組

みは地元サポーターが提案し、地域にある特産品を地域住民と関わりながら作ることで、地域を活性化しようと思った。

「豊国屋」がチームのサポーターズポンサーを務めているため、店主の岡本さんの指導で市内の約5㍏の畑に「津久井在来」計1㍏を播種（はしゅ）した。今後は草取りなども体験し、10月には収穫を予定している。



岡本さん④と農作業を楽しむ選手（神奈川県相模原市で）

石田みなみ選手は「農業体験は初めてだったが、楽しくできた。地域から応援されるチームでいられるよう、地域との関わりを大切にしていきたい」と感想を述べた。

岡本さんは「たくさん収穫できたら加工品を作ってもいい。津久井在来の魅力を、地元チームの力を借りて多くの人に伝えていきたい」と話した。